

<金標準、CPI、PPIの発表次第で16200円へ・・・>



(出所：オアシス)

トランプ大統領は、「BRICSの反米政策に協調するいかなる国も、追加で10%の関税を課されることになる」と発言し、また日本を含む相互関税の新関税率を16ヶ国に送付し、ブラジルからの輸入品には貿易相手国・地域の中でも高水準となる50%の関税を課すと発表、また銅に対しても輸入関税50%を課すと発表している。特にブラジル大統領は「米国なしでも生きていける」と発言し、交渉が決裂した場合は米国に50%の報復関税を課すと発言している。そのため市場には関税リスクが強まり、逃避需要からNY金は3300ドルを維持しながら週末には3381ドルまで高値を試している。特に日本は20日に参議院選挙を控えており、為替市場では逃避買いが収まり円安の動きが強まるなど、円建て金標準先物は15600円を回復すると週末には16053円まで高値を試している。また今週は米国の消費者物価指数や生産者物価指数、小売売上高など主だった経済指標が続くだけに、金利引き下げの確率が高まる様であれば16171円の史上最高値を試す可能性は高まると思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDが上昇し、シグナルも切り上げている。RCIは短期が横ばいし、長期が切り上げだしている。特に日足が10日移動平均線、40日移動平均線を上回るなどテクニカルで強気を示唆していると思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取 2,675,000 円(2025 年 7 月 14 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 79,200 円(2025 年 7 月 14 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>